

## 小玉スイカ（促成）

|      | 1         | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11    | 12    |
|------|-----------|----|---|----|---|---|---|---|---|----|-------|-------|
| 作型   | —◎——◇——// |    |   |    |   |   |   |   |   |    | ○○—▲— |       |
| 主な作業 | 定植        | 交配 |   | 収穫 |   |   |   |   |   |    | 台木播種  | スイカ播種 |

### 技術体系

#### 1 作型の特徴

育苗から交配、果実肥大初期まで低温少日照条件下にあるので、天候によっては着果に不安定で、病害の発生もしやすい。

#### 2 適応地域

平坦地域

#### 3 栽培条件

##### (1) 温度

高温、多日照を好み生育の適温は、昼間25～28℃、夜温15～20℃、地温18～23℃である。低温は着果を不良にする。

##### (2) 光

光飽和点は8万ルクスと果菜類のなかでは高い。

##### (3) 土壌条件

砂土から粘質土まで幅広い土壌に適応するが、耕土が深く、地下水の低いことが望ましい。根自体は酸性に強いが、pH5.0～6.5が望ましい。

#### 4 施設装備

- (1) 連棟型ハウス
- (2) 暖房機
- (3) カーテン
- (4) 灌水施設

#### 5 経営目標

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| (1) 収量     | 5.4 t/10a（2番果まで）    |
| (2) 投下労働時間 | 290時間/10a           |
| (3) 所得率    | 45%                 |
| (4) 経営規模   | 80a<br>（家族労働力2人の場合） |

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

「ひとりじめ7」

低温着果性に優れ栽培しやすい。強いシャリ質と高糖度で食味にも優れている。

果実は、腰高の円球形で、2.0～2.5Kg、果皮は縞皮で薄い比較的硬めで裂果、裂皮が少ない。肉色は濃い鮮紅色で糖度は13～14%以上である。

肥沃地の多肥栽培はつるボケの危険があるので、基肥の窒素は少なく、追肥で加減する。

「ひろりじめBonBon」

黒小玉品種。果肉色は鮮紅色で硬めの肉質。高温期にも向く種子が小さいため、他品種より播種～接木までの日数が2～3日多くかかる。（播種日に注意）

#### 2 育苗

##### (1) 育苗施設

2層ハウス＋トンネル＋電熱線を利用して苗づくりをする。本圃10a当たり700株を育苗する。

## (2) 播種

播種床は、土壤消毒済みの無病土を使用する。播種量は10a当たり750粒とする。

穂木と台木（トウガン、ユウガオ）の播種間隔は、さし接ぎでは台木を5～7日早く播き、呼び接ぎでは同時まき（ライオン冬瓜）、または穂木を1～2日早く播く。

さし接ぎは、図1-①が一般的であるが、図1-②の様に、あらかじめ台木を鉢上げし活着したものに接ぐと、穂木のしおれが少なく活着率もよい。

## (3) 接ぎ木後の育苗管理

接ぎ木した苗は、根が乾くまえに早めに植え込み、ビニル+遮光シートをかけ湿度を保ちしおれを防止する。翌日から場合に応じて換気を行い、朝夕は遮光シートをとり光線を当てるが、日中しおれがみえたら遮光し、噴霧器等で軽く葉面に散水し回復を図る。3日目からは遮光せず、しおれたら葉面に散水する。

徒長しないように灌水管理を行い、特に午後の灌水は避ける。

## 3 本圃の準備

### (1) 施肥

| 【 施肥量 】 |    |                               |                  | (Kg / 10a)    |
|---------|----|-------------------------------|------------------|---------------|
|         | N  | P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> | K <sub>2</sub> O | 備考            |
| 基肥      | 8  | 20                            | 10               | 完熟堆肥<br>1t～2t |
| 追肥      | 6  | 4                             | 4                |               |
| 合計      | 14 | 24                            | 14               |               |

施肥は窒素過多にならないよう注意する。特に前作の肥料が残っている場合は、基肥量に注意する。

## 4 定植

### (1) 栽植様式

| 仕立て           | 畦幅   | 株間   | 栽植本数       |
|---------------|------|------|------------|
| 3本仕立て<br>2果採り | 2.5m | 60cm | 666本 / 10a |

## (2) 定植

定植は、暖かい日を選び、鉢に十分灌水しておく。地温が18℃以上確保しておく。

若苗の定植は、定植後の管理や交配等に悪影響を与えるため絶対行わない。

## 5 定植後の管理

### (1) 温度管理

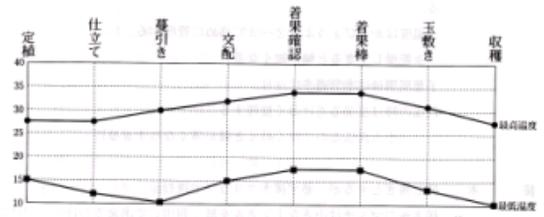


図3 温度管理

定植から活着まで日中30℃、夜間15℃を目標に管理し活着促進に務める。

活着後から整枝前まで、日中25℃以上、夜間10℃とやや低めに管理し根の伸長を促す。

整枝後は、日中温度を38～40℃目標に管理し、夜温も高めに管理する。

活着後は、日中温度を35～38℃目標に、夜間も高温管理とし、果実の肥大を促す。

### (2) 整枝と誘引

本葉5枚で早めに摘心する。

子づるが10cm前後に伸びた頃、生育の揃ったものを3本残しその他の子づるは除去する。

孫づるは、定植後38～40日目につる先の雌花が見えたときに着果節位まで除去する。草勢の弱い時は、交配直前に行う。

つるの誘引は、中央溝近くに引き寄せ、つるの間隔を20cm程度にし、ハウスの外側に向け直角に伸ばす。

### (3) 着果

着果節位は18～20節を目安とし、低節位での着果は品質低下となるため避ける。

### (4) 交配

1番果は必ず人工受粉により、花粉がでたらすぐに行い、遅くとも午前11時頃までには終わるようにする。着果促進としてフルメット液剤100倍を交配当日子房処理する。丁寧に両側から処理し、花

にかからないようにする。

2番果はミツバチ交配も可能であるが、天候によっては人工受粉に切り替える必要がある。

#### (5) 摘果・着果棒

果実横径4cmで摘果を行い、1株に2果残し、同時に着果表示を立てる。表示は2日に1回とする。

#### (6) 玉直し

果実が直径10cm（ソフトボール大）頃にマットを敷き、正座させて変形やはら白果を防ぐ。

また、収穫前7～10日に果実を横に倒し尻の黄色部分に着色させる。

### 6 収穫

天候、台木、草勢などの影響で成熟日数が異なるので、試し切りを行って、着果棒の日付けにより、過熟にならないように収穫する。